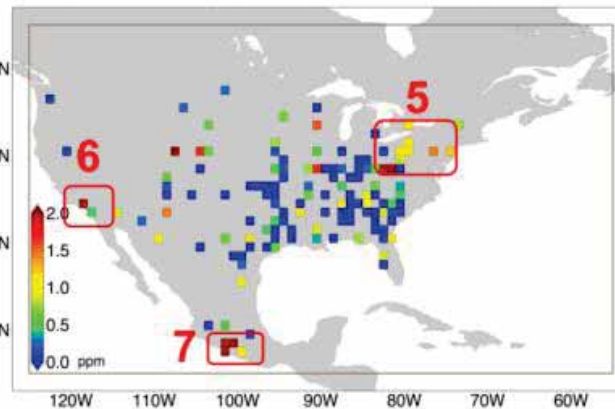
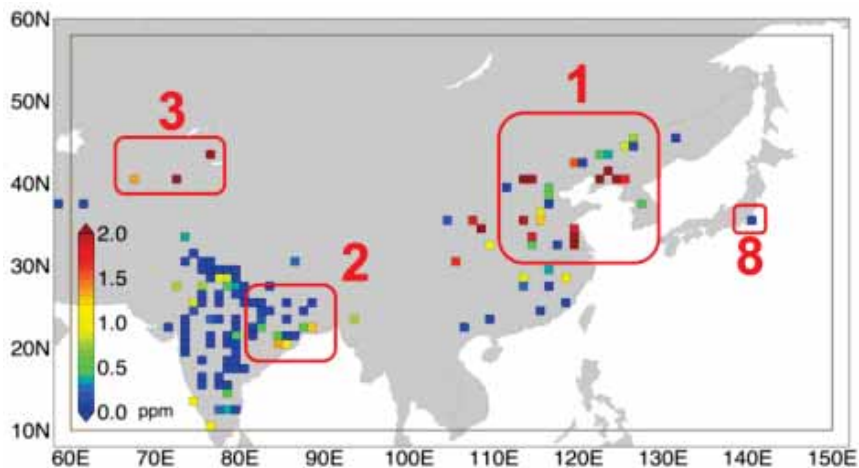
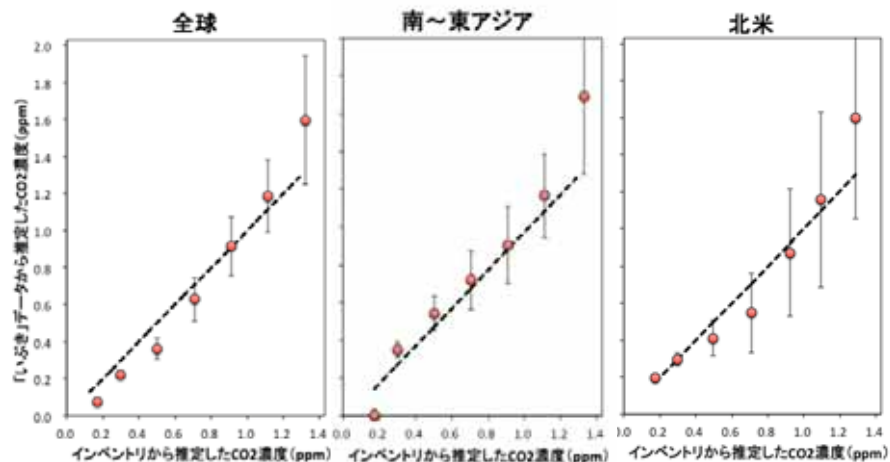


4.(3) 国別人為起源GHG排出量の検証

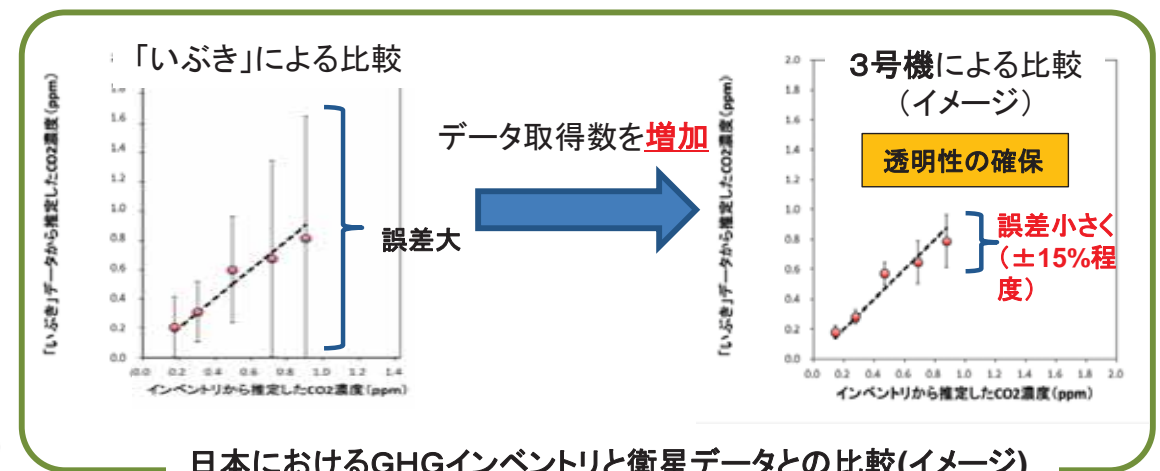
パリ協定に基づき世界各国が作成・公表するGHG排出量の正確性、透明性および信頼性を向上させるため、3号機「温室効果ガス・水循環観測技術衛星」による検証を実現する。



	有効データ点数 (2009~2014年)
全球	13,616
南～東アジア	5,589
北米	4,684
日本	396

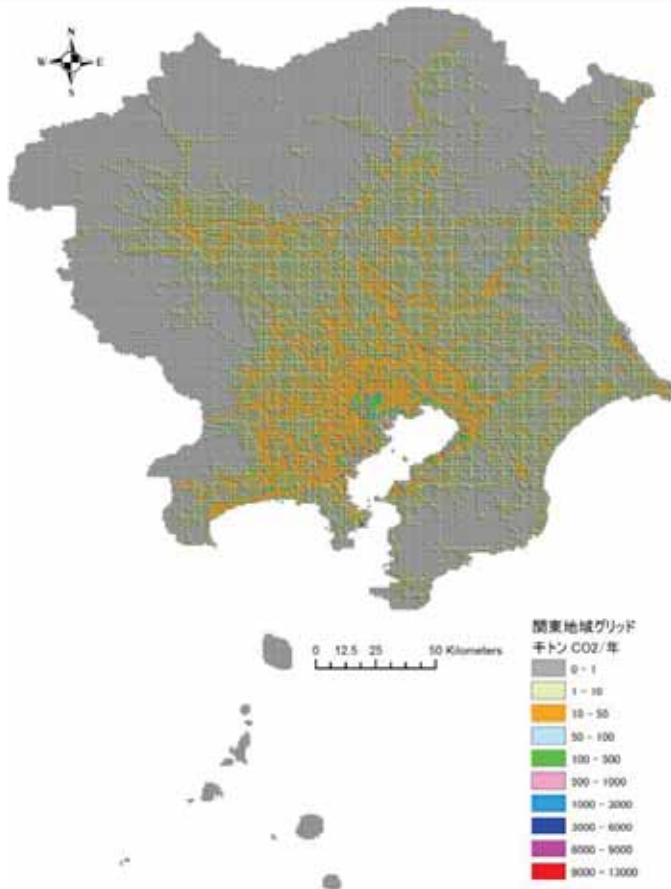


人為起源CO₂の高排出地域 平成28年9月1日(木)報道発表

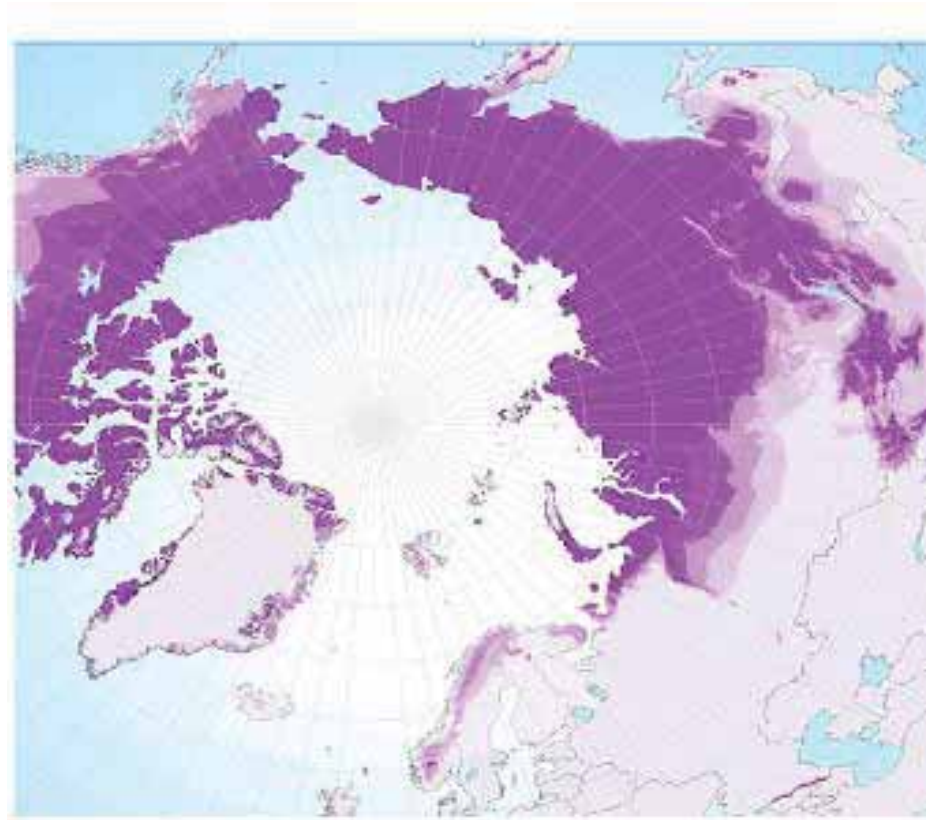


日本におけるGHGインベントリと衛星データとの比較(イメージ)

4.(4) 大規模排出源等のモニタリング



2015年 関東7県の排出インベントリ(約1kmグリッド)
(環境省委託業務により国立環境研究所作成)



※:(例)永久凍土
土壌の温度が0°C以下に
保たれている状態が、2年
間以上続いている土地。
融解に伴うGHGの放出が
問題視されている。

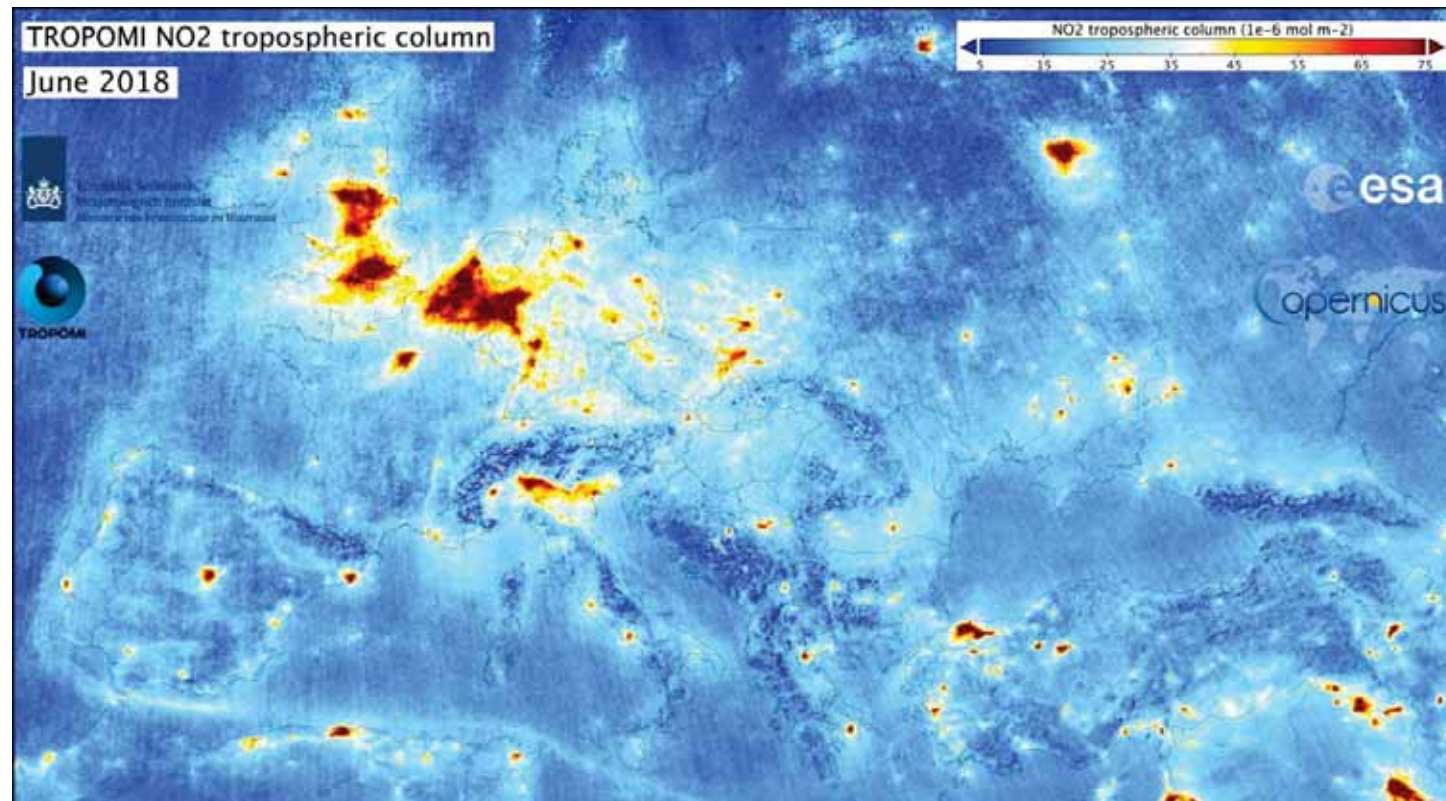
連続永久凍土 (90-100%)
不連続永久凍土 (35-90%)
散在永久凍土 (10-35%)
点在永久凍土 (0-10%)

出展: JAMSTEC「永久凍土からメタン! ?」
(<http://www.jamstec.go.jp/iccp/j/pfch4/>)

- ◆ 人為起源GHG排出量の推計に影響を及ぼす大規模排出源からのGHG排出を監視することに加え、現在の観測技術で検知されていない未知の排出源を明らかにする
- ◆ 観測対象となるGHGは、CO₂およびCH₄とする

4.(5) 大規模排出源等のモニタリング

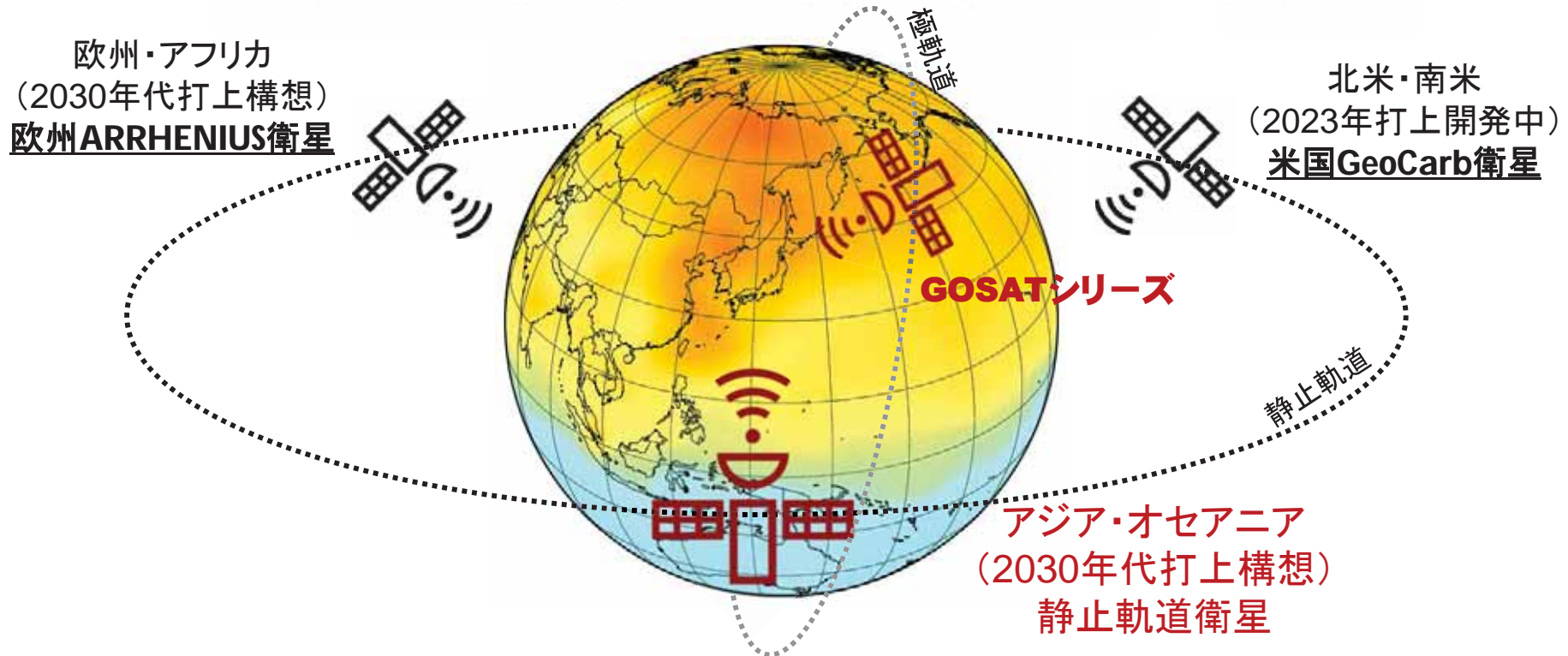
- ◆ 化石燃料燃焼起源のCO₂排出源を特定する気体(トレーサーガス)としてNO₂をCO₂観測と同等の観測幅及び空間分解能にて面的に同時観測することが望ましい



<http://www.tropomi.eu/data-products/nitrogen-dioxide>

5. 将来の温室効果ガス観測ミッションの構想(案)

各国の静止軌道衛星と極軌道衛星群との連携により
温室効果ガスおよび大気汚染物質の排出状況を
全球常時監視、準リアル情報配信サービスを目指す

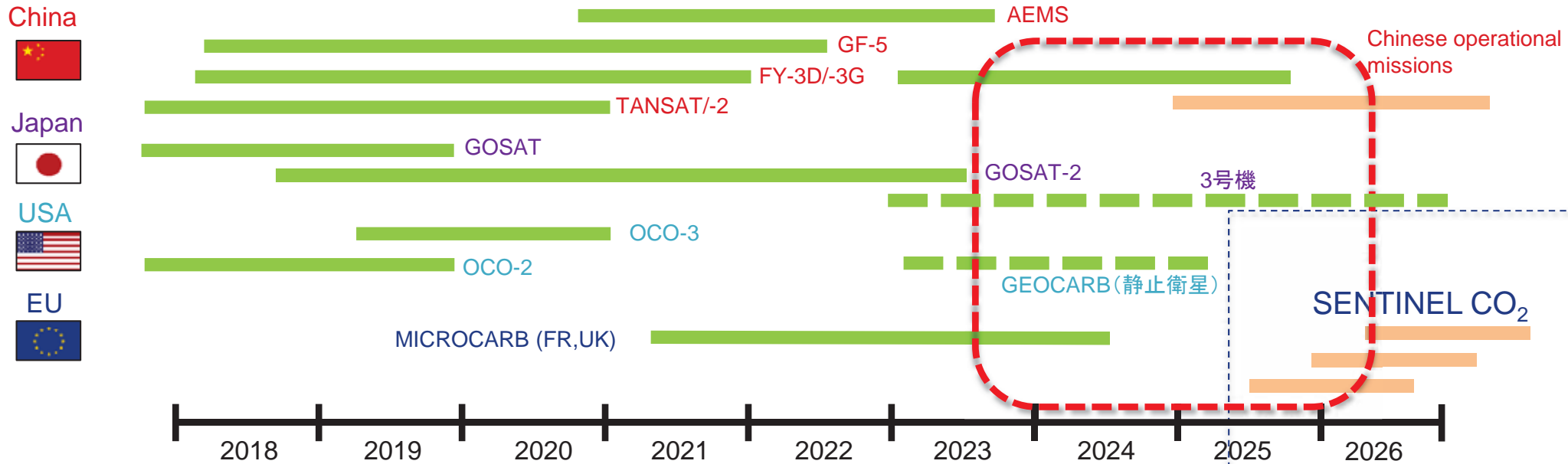


- 従来の極軌道衛星観測では数日～十数日に1回程度、決められた時刻に高精度な観測が可能
- 温室効果ガスや大気汚染物質の排出源特定には**24時間365日の観測**が有効
- 米国、欧州の静止軌道衛星等と連携し、排出源や発生状況等を準リアルで地上に配信を行う**全球常時監視**を目指す
- 我が国は、高精度かつ長期間観測可能な次世代型観測センサの開発を行い、**世界をリードし国際標準化を目指す**
- 気候変動を総合的に把握するため、温室効果ガス観測衛星に加え、他の地球観測衛星(植生分布、海面水温等)の情報も重要

6. 地球観測衛星委員会(CEOS※)による温室効果ガス観測衛星の観測計画

※CEOS : Committee on Earth Observation Satellites

SPACE COMPONENT



SERVICE COMPONENT

